

Y Camp 100 Stories vol.003

寺井 清
Terai Kiyoshi

富山県キャンプ協会会長
富山 YMCA 監事

子どもも一人の人間として認められる社会へ

▼富山の自然と YMCA キャンプとの出会い

富山の神通川で、川遊びや住処作りに興じた幼少年期から、野外活動の食と住の楽しさを体験、今に至るキャンプ活動の原点となっています。小学4年生の時に、富山YMCAの創設メンバーの寺田保氏などが開催した夏期学校に参加し、初めてYMCAと出会いました。工業高校の教員となった以降も、スキーやキャンプを楽しむ仲間の多くが、YMCAでコーラスや美術、フォークダンスを学んでおり、自然とYMCAに関わるようになりました。1965年に北海道から赴任してきた富山YMCA初代総主事山下政一氏のもとで、本格的な組織キャンプにボランティアとして参加するようになりました。能登半島で行われたキャンプで、最も印象に残っているプログラムは、夕陽に向かって全員で沈黙の時間を過ごす「夕陽（せきよう）会」でした。大自然を前に、自分と向き合う貴重な時間をキャンパーと共に過ごした素晴らしいキャンププログラムでした。70年安保前の混乱の中、生き方のモデルを神様に求めていたとき、決して押しつけられることもなく、山下総主事の「それも一つ」という言葉に安心して受洗を受け入れることができました。

▼富山県キャンプ協会の設立

青少年キャンプや子どもキャンプが盛んになり、山下総主事がベトナムに赴かれたあとも、会員によって、モーニングサイクリングなど野外活動は継続されていきました。



そのような中で、三重県津市の事故に伴うボランティア裁判は、YMCA のみならず、ボーイスカウトや青年の家、児童クラブなどの多くの野外活動を主催している団体に対し安全性と保険の加入が求められるようになり、そこで各団体関係者と協力して 1987 年（昭和 62 年）6 月 6 日富山県キャンプ協会を設立しました。各団体関係者の中にも元 YMCA 会員だった方もいらっしゃいました。初代会長の人選については、ボーイスカウト活動を長年実践されていた富山 Y M C A 副理事長の青山啓七氏にご足労を願い、元北陸銀行専務でのちに日本山岳会会長に就任された藤平正夫氏になっていただきました。

▼YMCA キャンプ 100 年への期待

今大切なことは、森（山）と畑（平地）と海を守ること。自然の変化を体験できる年間活動を通じて、水と太陽と土が自然を再生させることを実感できるワークキャンプが必要です。キャンプやスポーツを通じて、勝ち負けではなく、互の存在を認め合い、子どもも一人の人間として認められる社会の構築が必要になってくると思います。

Profile

1965 年（昭和 40 年）から工業高校教員 YMCA フォークダンスクラブ、キャンプ委員 1987 年（昭和 62 年）から富山県キャンプ協会理事長 2001 年（平成 13 年）より会長 現在 公益財団法人富山 YMCA 監事

【取材：富山 YMCA 松田 誠一】